

エコパルなごや

秋号
Vol.88

かんきょうをたのしく学ぶ

とくしゅう
特集

生物多様性について考えよう！

★☆新プログラムのご案内☆★

みなさんは『生物多様性』という言葉を知っていますか？
生物多様性とは、生きものや生態系の豊かさをあらわす言葉です。
生きものはお互いにつながりあい、支えあって生きています。
生きものの一員である人も、たくさんの生きものにつながりながら生きています。
そして、生きものからとてもたくさんの恵みを受けて暮らしています。
生きものとわたしたちは、どのように関わっているのか考えてみましょう。



10月からエコパルなごやのバーチャルスタジオで、生物多様性の新プログラム「生きものつながりとわたしたち」の上映がはじまるよ！

春

ぽかぽかとあたたかい春



目にする動物が増えて活発に活動したり、えさを食べたりするようになり、植物も増えて、いろいろな花が咲くようになります

夏

太陽がまぶしい夏



春よりもさらに動物が増え、成長して大きくなったり、姿や形が変わったりします
植物も増えて草丈が伸び、いろいろな花が咲いたりします

秋

涼しい風が吹きはじめる秋



目にする動物が減り、活動が鈍くなって、あたたかい場所で冬を越すために、渡りをはじめ鳥も見られるようになります
目にする植物も減って葉の色が変わり、実がなったり、枯れたようになります

冬

寒さが厳しい冬



冬眠で冬を越す生きものたちもいて、冬の渡り鳥もやってきます
植物は葉が落ちて実が残ったり、木は枝に芽をつけます

いろいろな話題をお届けします。

特集

生物多様性について考えよう！

エコパル
NEWS

なごや環境大学

特別ワークショップ、マンスリー企画展示など

1 いろいろな生きものと生きものつながり

たくさんの生きものが、森、川、海などいろいろな場所で、自然とつながりをもってすんでいます。(生態系の多様性)

また、地球には、およそ500万から3,000万種類の生きものがすんでいます。陸上には哺乳類や鳥類、水中には魚類や貝類などさまざまな生きものがいて、生態系を支えています。(種の多様性)

そして、同じ種類の生きものでも、地域によって形や行動が少しずつ違っていているものがあります。例えば、同じトンムシの仲間でも、羽の色や模様が違っています。(遺伝子の多様性)

『食べる-食べられる』の関係

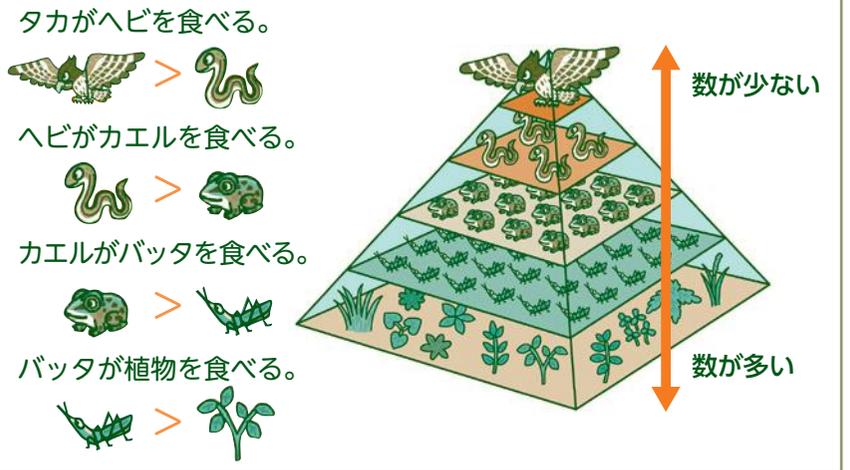
生きものたちは、お互いにつながりあい、支えあって生きています。

例えば、生きものは『食べる-食べられる』という関係(食物連鎖)でつながっています。森での生きものつながりをみると…

このようなつながりはピラミッドの形で表されます。

ピラミッドの頂点にはタカがいます。

ピラミッドの形になっているのは、一番下の植物がもっとも多くて、頂点にいるタカに向かってだんだん数が少なくなっているからです。もしも、植物が半分減ってしまったら、それを食べている生きものも減ってしまうことになります。



2 生きものとわたしたちの暮らし

(1) わたしたちの暮らしと生きものとの関係

身の回りのものの中には、植物や動物、つまり、生きものから作られているものがたくさんあります。

わたしたちの暮らしは、いろいろなかたちで生きものがもたらす恵みに支えられています。

生きものがもたらす恵み



写真提供：三陸新報社
引用：環境省生物多様性ウェブサイト



写真提供：森田敏隆
引用：環境省生物多様性ウェブサイト



写真提供：鍵井靖章
引用：環境省生物多様性ウェブサイト



写真提供：山本昇
引用：環境省生物多様性ウェブサイト

(2) 森のはたらき

森には木々や草花などさまざまな種類の植物が生育しています。また、その植物の花や実をえさとしたり、森をすみかにしているたくさんの動物がすんでいます。

森は、わたしたちの暮らしに大切な恵みを与えてくれる生きものたちのすみかとなっているだけでなく、他にもさまざまなはたらきがあります。

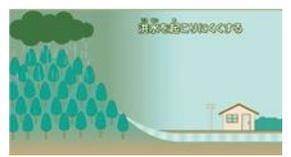
森のはたらき①

森はまわりの気温を下げてくれるため、夏に森を訪れると涼しく感じます



森のはたらき②

森は山に降る大雨をいったん受け止めて、街が洪水の被害にあうのを防いでくれます



森のはたらき③

降った雨を、木や落ち葉や土の働きできれいにしてから川に流してくれます



森のはたらきを人間の力でを行うと、たくさんの人手や資材が必要です。しかし、自然の世界では、生きものが集まった森が行ってくれています。

3 生きものたちが迎えている危機

人間は、便利で快適な暮らしを手に入れるために自然に影響を与えてきました。その影響で生きものつながりやバランスがくずれはじめて、生きものたちは大変な危機を迎えています。

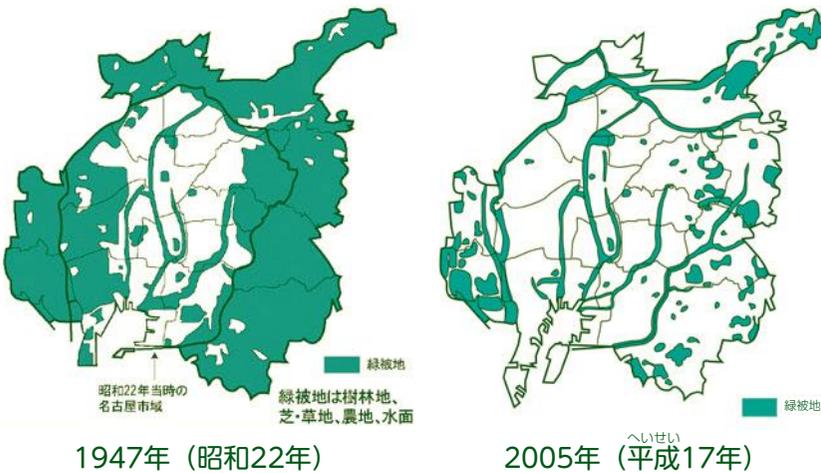
(1) 土地開発

人間は田んぼや畑を作るために森を切り開いてきました。そして、その田んぼや畑の上に、自分たちがすむ家や工場を建ててきました。

名古屋では、1965年頃を境に、田んぼや畑、山林が減っていく一方、すむ家や会社・工場が増え続け、急激な都市化が進みました。

2005年の名古屋の緑被率の地図では、森林、草地、農地などのみどりの割合は、24.8%まで減っています。

1947年と2005年の地図を比べると、みどりが約60年の間に大きく減って、生きものすみかが失われてしまったといえます。



(2) 外来種

外来種とは、その地域に生育・生息していなかったのに、国内の別の地域や国外から人間によって持ち込まれた生きものを指します。人間が野外に放したり、外国から来た船などの乗りものにまぎれこんでいたりして、知らないうちに持ち込まれたりしています。

外来種が持ち込まれると、食べ物やすむ場所を奪われたりして元々すんでいた生きものが絶滅してしまうおそれがあります。

なごやの外来種の例

みんなもよく知っている「なごやの外来種」についてみてみましょう。

① カダヤシ

メダカとよく似ている外来種です。蚊の幼虫「ボウフラ」をすごい勢いで食べることから『カダヤシ』という名前がついたと言われています。

カダヤシは、お母さんのおなかの中で卵がかえってから、赤ちゃんがおなかの外に出てきます。このため、すごい勢いで増え、メダカといっしょに飼うと水槽がカダヤシばかりになってしまうこともあります。

② ミシシippアカミミガメ（別名ミドリガメ）

ペットとして飼いきれなくなって池や川に放されると、元々そこにすんでいるカメのすみかを奪ったり、水草を食べたりして、水中環境にも悪い影響が出ています。

③ アライグマ

雑食性で、果物、野菜、ほ乳類、昆虫などいろいろなものを食べてしまいます。森林、農地のほか、周辺の住宅地にも現れ、さまざまな環境で生活することができます。

日本にはアライグマの天敵がないため、人の生活や農作物への被害だけでなく、在来の生きもの生態系に影響を与えるおそれがあります。

④ オオキンケイギク

繁殖力が強いいため、生育地を拡大したり、光をささげたりすることで元々生えていた植物の生育を妨げます。河川敷などで一面に花を咲かせることもあります。



4 ぜつめつ 絶滅のおそれのある生きものたち

ふ つづ ぜつめつき くしゅ 増え続ける「絶滅危惧種」

都市化が進む名古屋では、残された自然の中で子孫を残すことが難しくなった生きものがあります。そういった生きもののおそれを『絶滅するおそれがある生きもの(絶滅危惧種)』と言っています。

地球上では、生きものがかつてないスピードで絶滅していると言われています。

なごやのぜつめつき くしゅ 名古屋の絶滅危惧種

名古屋市では、市内の絶滅のおそれのある生きものをリストアップしたレッドリストを公表しています。

2015年版では、植物182種、動物207種の合計389種が掲載されていますが、5年前の2010年版に比べると、植物と動物の合計で44種も増えています。

ミナミメダカは、水が汚れたり、流れが緩やかな小川が減ったことなどにより数が大きく減少し、絶滅危惧種に指定されています。

ニホンイシガメ、ナゴヤダルマガエル、トノサマガエルなども絶滅危惧種に指定されており、これらの生息・生育状況や特徴などをまとめたレッドデータブック2015も公表しています。



ミナミメダカ



ニホンイシガメ



ナゴヤダルマガエル



トノサマガエル

5 わたしたちにできることは何だろう…

人はたくさんの自然や生きものとのつながりながら暮らしており、人だけでは生きてゆくことはできません。そのため、自然や生きものを守ることを考えないといけません。

自然や生きものを守るということは、森や川などの生きものが暮らす環境を守るということです。

例えば、いろいろな生きものが暮らせる場所『ビオトープ』を作って、カエルやトンボが卵を産める場所や昆虫が生活できる場所を作ることも大切な取り組みの一つといえます。

自然を守るということは、結局は巡り巡って自分たちが守られることにつながります。自然に感謝し、自然に親しんで、豊かな自然や生きものへの恵みを未来につないでいきましょう。

自然や生きものを守るために、何かできることから始めてみませんか。

<p>アクション1 『食べよう』</p>	<p>季節のもの、地元のを食べ、季節を味わいましょう 野菜や魚には、「旬」という食べごろの時期があります</p>	<p>アクション3 『伝えよう』</p>	<p>自然の素晴らしさや季節の移り変わりを感じて、家族や友達などまわりの人に話してあげましょう</p>
<p>アクション2 『ふれよう』</p>	<p>川治いや公園などをゆっくり散歩して身近な自然を感じたり、動物園や植物園を訪ねて、いろいろな生きものを探したり、触れてみましょう</p>	<p>アクション4 『守ろう』</p>	<p>生きものや自然、人との「つながり」を守るために、地域などのいろいろな活動に参加してみましょう</p>
	<p>アクション5 『選ばよう』</p>	<p>エコラベル※がついた、環境にも生きものにも、やさしい商品を選んで買しましょう</p>	

※エコラベル：環境にやさしい製品に貼ってあるマークで、生きものにもやさしいマーク



なごや環境大学



配布中!

「なごや環境大学ガイドブック 2018 後期号」

子どもから大人まで、誰もが気軽に参加できる環境講座をまとめた「なごや環境大学ガイドブック2018後期号」が無料配布中です。

講座の内容、スケジュールについては、ぜひこの一冊をご覧ください。

配布場所	▶ 区役所	▶ 生涯学習センター
	▶ 図書館	▶ スポーツセンター等



愛岐の里山たいけん隊・秋



岐阜県多治見市諏訪町にある「愛岐処分場」は、名古屋市から出るごみを焼却した灰などの埋め立て地。その敷地内にある『里山』で、自然との共生をたいけんします！お昼は春のたいけん隊が田植えしたお米で作る五平餅と、諏訪町のみなさんが育てた食材をメインに使ったおいしい手作りごはん♪

会場まではエコパルからバスで行きます。
たくさんのご応募、お待ちしております！



- 日時** 11月10日(土) 8:30 ~ 16:30
- 場所** 名古屋市愛岐処分場(岐阜県多治見市)
- 集合** 伏見ライフプラザ2Fエントランスホール
- 解散** 伏見ライフプラザ13Fエコパルなごや
- 受講料** 1,500円+振込手数料
(バス代・保険料、要事前振込)
- 対象** 小学4年生から中学2年生まで
- 定員** 30名
- 申込** 「愛岐の里山」と明記のうえ、お名前、学校名、学年(年齢)、性別、ご住所、お電話番号(あればFAX)、メールアドレスとアレルギー、バス酔いの有無を、下記の宛先へ、FAX、メールいずれかでお送りください。
- 期限** 10月15日(月)必着・抽選
※受講料はバス代・保険料代として全額バス会社へお支払いください。(要事前振込) 振込先は抽選後、参加者様へお知らせいたします。

旅行企画・実施・お支払い先
 ㈱ツーリスト中部
 (愛知県知事登録旅行業第2-1133号)
 総合旅行業務取扱管理者 平本 直靖
 〒452-0903
 愛知県清須市助七1-176 片岡ビル1階
TEL 052-409-8070
FAX 052-409-9130

申込・お問い合わせは下記「なごや環境大学」実行委員会事務局までお願いします。
「なごや環境大学」実行委員会事務局(エコパルなごや内)
 〒460-0008
 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
TEL&FAX 052-223-1223
E-mail jimu@n-kd.jp
HP <https://www.n-kd.jp>



エコパルなごやのメールマガジン「エコパル通信」のお知らせ

エコパルなごやのイベントや展示情報、なごや環境大学の講座情報など最新情報をタイムリーにお知らせします。エコパルなごやウェブサイトのトップページ「エコパル通信」の登録フォームにメールアドレスを入力すると登録されます。



エコパルなごや

「木の実を使ってツリーやリースをつくろう！」

- 日時** ①11月18日(日) 13:00～、14:00～ <各30分程度>
②12月9日(日) 13:00～、14:00～ <各30分程度>
- 対象** 3歳から12歳(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各20名(要申込・先着順) ※10月11日(木) 9:30受付開始
- 費用** 1作品500円 **講師** 守山リス研究会
- 内容** リスの生息する森等で集めた木の実を、マツボックリやリースにグルーガンで接着して、オリジナルの作品を作ります。



「自然木を使ったぶたカエルづくり」

- 日時** 10月21日(日) 11:20～11:50、13:20～13:50
- 対象** 園児～小学生 親子参加OK(小学3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各25名(要申込・先着順)
- 費用** 500円 **講師** もくもく楽舎 たけちゃん工房
- 内容** 自然の木を使った工作教室。手のひらサイズのぶたカエルを作ります。



「自然木を使ったトナカイづくり」

- 日時** 12月2日(日) 11:20～11:50、13:20～13:50
- 対象** 園児～小学生 親子参加OK(小学3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各25名(要申込・先着順) ※11月11日(日) 9:30受付開始
- 費用** 500円 **講師** もくもく楽舎 たけちゃん工房
- 内容** 自然の木を使った工作教室。手のひらサイズのトナカイを作ります。



マンスリー企画展示

10月
テーマ

いっしょにeco

出展者

花王グループ
カスタマーマーケティング(株)

内容

くらしのなかで、簡単にできるエコをクイズでご紹介します。体験された方にはプレゼントを差し上げます！

11月
テーマ

藤前干潟写真展

「藤前干潟の魅力～風景・生き物～」

出展者

藤前干潟ふれあい事業
実行委員会

内容

募集した藤前干潟の写真を展示します。写真をとおして、藤前干潟の魅力を皆様へお伝えします。

12月
テーマ

環境白書表紙絵
入賞作品展示

出展者

環境局環境企画課

内容

「平成30年版 名古屋市環境白書表紙絵募集」で入賞した作品を展示します。

名古屋市環境学習センター

エコパルなごや

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅「6番出口」徒歩5分
■開館時間／午前9時30分～午後5時 ■入館料／無料
■休館日／毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日
年末年始 12月29日～1月3日

申込・問合せ先 TEL: 052-223-1066 FAX: 052-223-4199

<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/>

E-mail: a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

この情報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

